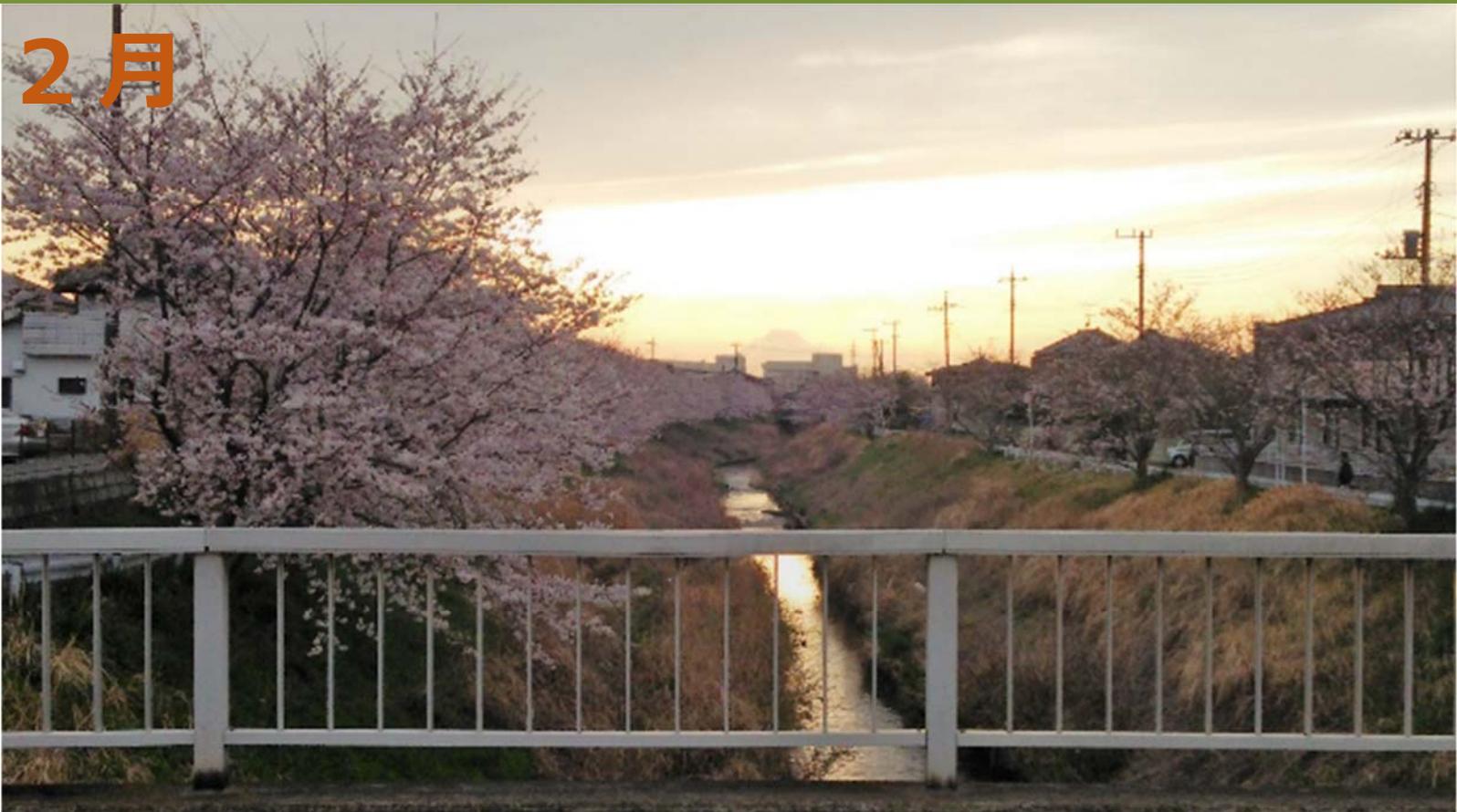


2月



あの日のあの川 リレー日記 ～第60話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第60話主人公 三森彩音

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県小櫃川・矢那川)

「日常の中に」

いつのこと？： 幼少期～高専生

どこの川？： 千葉県矢那川

皆さんこんにちは。筑波大学白川研究室の三森彩音です。実は宇佐美君からバトンを受け取ったとき、書けるようなエピソードは何かあるかと悩みました。畑の用水路でやごや小魚を捕まえたかどうかと思うくらいです。しかし記憶をたどると、いくつかの思い出の中に地元を流れる矢那川が出てくることに気づきました。今回は矢那川に関する小さな思い出を3つ書きたいと思います。

3つの思い出のうち、一番幼い頃の思い出は鯉を眺めたことです。赤い鯉、白地に赤や黒の鯉がいる中で、金色の鯉がゆったりと泳いでいたことを覚えています。いつのことか思い出せないけれど、ふわふわとして何となく心が暖くなる思い出です。母に聞いてみると、どうやら小学生になる前の思い出らしいとわかりました。私は幼い頃、2～5歳児が公園に集まって遊ぶサークルに入っていて、その帰りに何度か矢那川の鯉を覗いていたようです。公園では砂場遊びや追いかっこをしていたらしいのですが、

まったく思い出せません。ただ、矢那川の鯉を思い出したときに暖かい気持ちになったのは、きっとそれが楽しい思い出だったからだと思います。

それから月日が過ぎて、私は地元の高専に通うようになりました。高専とは高校と大学の間のような学校で、中学校卒業後の5年間で高校の勉強や理工系の専門科目を学びます。卒業後は就職や大学への編入のほか、さらに2年間高専に通い専攻科で学ぶという選択肢もあります。私は矢那川にかけられた橋を通過して、自転車で高専に通っていました。一つ目の思い出に登場した橋よりも少し上流にある橋です。この橋から川をのぞき込んでも鯉は見かけませんでしたが、慌ただしい朝や疲れた夕方でも季節を感じさせてくれる場所でした。春には桜、夏は草木が青々と茂り、秋には木の葉が色づき、冬は寂しげな雰囲気を感じました。雨の後には濁って水嵩を増す矢那川が日々の変化を気づかせてくれましたし、夕日が美しい日には自転車を降りて景色を眺めることもありました。たまにスマートフォンで写真を撮りましたが、上手く写せずに大抵すぐ消してしまっていました。今回のリレー日記の冒頭の写真は、いつもと一本違う通りで帰った時に撮ったためかたまたま残っていた写真です。私は専攻科まで通いましたので、7年間矢那川を渡っていたこととなります。けして特別な思い出ではありませんが、ふとしたときに矢那川の景色が心を慰めてくれたように感じます。

三つ目の思い出は高専生のときの生物調査です。私は高専で主に土木や環境について学ぶ学科に所属していました。授業の一環として矢那川の上流に行き、川の生物を調査しました。川に入って網で生き物を捕まえたり、石をバットに移して生き物をピンセットで捕まえたりしました。捕まえた生き物を顕微鏡で見ると、図鑑に照らし合わせて名前を調べました。薬品で色が抜けたためか、だんだんと可愛く見えてきたような記憶があります。種類の判別や考察は大変でしたが、今思えば良い思い出です。

大学院進学に伴い地元を離れ、22歳まで近くにあって矢那川からも離れて2年ほど経ちました。4月からの就職に備えた引っ越しでも地元に戻ることはありません。しかし実家に帰るたびに矢那川を渡りますから、きっとこれからできる思い出の中にも矢那川があることでしょう。もしかしたら年を重ねることで、新しい視点で矢那川を見れるようになるかもしれません。皆様がよく通りがかる川はありますか？ふとしたときに眺めてみると、何か思い出したり、少し心を軽くしてくれたりするかもしれません。ちょっと疲れた時にでも、このリレー日記を思い出して近所の川の風景を眺めていただければ幸いです。

長々と書いてしまいましたが、最後までお付き合いいただきありがとうございました。

(次は安藤ひなたさんにバトンを託します)